

# Fontaine

vol. 44

発行日 2014年7月25日  
発行/岸和田文化事業協会  
〒596-0073 岸和田市岸城町5-10  
岸和田市立自泉会館内  
TEL/FAX 072-437-3801  
Email:fontaine@sensyu.ne.jp  
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

## 次世代に託したい伝統への想い

特定非営利活動法人 萌木 理事長 池坊 保子

池坊いけばなは一昨年550年を迎えた。

人類の長い歴史の中で550年が長いのか短いのかはわからない。しかしただひとつ言えることは、550年の間そこに生きていた人たちがいけばなに美を感じ、意義と価値を見出し、精神の拠りどころとし、次の世代に継承していったということである。

遠い昔、宗教や医学を持たなかった日本の先達の人たちは、四季折々に移り変わる日本の自然の中に神を見出し、おだやかな自然に咲く、草木や美しい花々に祈りの心をささげた。自分の愛するものが病で苦しんでいるとき、その病が少しでも癒えるように花を枕辺に飾り、快癒を祈った。あるいは自分自身が苦しみや悲しみに心閉ざされるとき、花に救いをもとめ、生きるエネルギーの源とした。

6世紀の仏教の伝来とともに、花を仏様に供えることは仏教における重要な供養とされた。豊かな貴族たちは、お寺を建て、仏像をつくり、現世の平安と来世の安泰を祈った。貧しい一般市民たちは花を仏様に供えることによって、幸せを願った。日本の住まいのなかに書院造ができるとともに、花は仏様に供えるためのものだけではなく、鑑賞する対象として変化していった。文化を享受することにこの世の幸せを見出していた後水尾天皇は、いけばなにも大きく心を寄せ、宮中でいけばな展を開催した。京都において応仁の乱で地方から攻め寄せられたとき、町の中心にあった六角堂というお寺は鐘うちならし、庶民の団結の場となった。そこ

でお花を生けていた住職を中心として、池坊いけばなはさらにおおきく拡大し、確立されていった。様々な紆余曲折を経て、

食べるものにも事欠いた第二次世界大戦の時代にあっても、一輪の花に心のよりどころを見つけ、いけばなを次の世代に継承しようと心を傾けていった人々がいた。

今21世紀にある私たちは、グローバル化といわれる時代を生きている。ひとりの人間として人々から尊敬を得るためには、世界共通語ともいえる英語を流暢に話すことももちろん必要であるが、それはあくまでも手段である。そのうえで、世界共通の価値を認め、許容すると同時に、独自のみずからの世界観、文化、アイデンティティを持たなければいけないと私は強く思う。

いけばなだけでなく、日本の伝統文化はすべて祈りの心から発生している。その素晴らしい数々の伝統文化のなかにも、時代の流れのなかで消滅したのものもあれば、変化を遂げ発展していったものもある。私は次世代を生きる人々が真に尊敬を得られる存在になるために、自国の文化や歴史をしっかりと認識し、取捨選択しながら長い歴史に培われてきた文化を享受できるような人間になってほしいと願っている。



# 岸和田文化事業協会



信貴芳則 市長



第2部「日本の四季 心のふるさと」

平成26年度

# 定時総会を開催

5月17(土)に岸和田文化事業協会平成26年度定時総会を、来賓、他団体の代表の方々のご参加もいただき開催しました。

松本会長は挨拶で、イタリアのかつては破綻していたボローニャ市が、街の活性化の方向を「文化創造都市」とし、国の援助なしで今や世界に知られる存在となっている例を紹介し、そのような街づくりを私たちの団体が担いたいと熱く語りました。

来賓の信貴芳則市長からは、「昨年文化振興条例を制定し、現在文化振興計画を策定中であり文化を大切にする街づくりを考えている。優れた文化を取り入れた活動をお願いしたい」と祝辞をいただきました。

次に大阪文化団体連合会運営委員長の高田昌氏から、「岸和田文化事業協会は“文化は市民が作り上げるもの”という活動をして来られた。現在文化に対して厳しい逆風の時代であるが、私たちも工夫と府民の支えで進みたい」と祝辞をいただきました。

また来賓として、浪切ホール館長の近松健二氏、岸和田市の小口均企画調整部長、大西吉之助文化国際課長がご臨席くださいました。

次に西出國男氏を議長に選出。議案の平成25年度事業報告、同決算報告、監査報告、平成26年度事業計画(案)、同予算(案)を検討しました。

会場から「文化事業協会の活動には行政との連携が大切である。浪切ホール、マドカホール及び自泉会館の3館の合同会議を定期的で開催し、その内容が事業報告中に記載されているとよい」、「自泉会館及び文化事業協会の存在がまだまだ広くは知られていない。会員募集の方法や手続きもより簡単なものに工夫を」などのご意見をいただきました。

また和田正則広報部会長の死去により、和田氏の残任期間を本郷元子理事が常務理事及び広報部会長として務めることが理事会で承認されたと報告されました。

第2部イベントは、「日本の四季 心のふるさと」と題して、日本の童謡・唱歌10曲を、音登夢による二重奏演奏、理事による二重唱、独唱、三重唱が披露されまた、全員合唱もあり、伴奏も理事にて多様な演奏で楽しみました。また、曲に合わせて映像も投影されゆったりしたひと時を過ごしました。

その後、ギャラリーにて懇親会が行われ会員相互の親睦を深めました。

(本郷元子)

## ひたすら演技を練り上げた

俳優

高橋 悦史



おおそ俳優とは縁遠い岸和田の地で「岸和田出身の俳優で思い当たる人いる？」と聞いてみると、たいていの場合『ウーン』と考えてから「高橋悦史さん!」と答えが返ってきます。同級生達から「エッチャン」と親しまれていた彼を紹介しましょう。

高橋悦史さんは、1935年岸和田生まれ、岸和田市立中央小学校・岸城中学校、府立岸和田高校を卒業しました。小学2年生の時父が病没、母は南海岸和田駅前商店街で高橋洋装店を経営し、一人息子の彼を育てました。野球少年で小学生のころから甲子園球場に通い、高校では野球部でファースト、甲子園をめざし練習に励んだそうです。ところが、視力が急激に落ちたことなどで野球部を退部。その頃同級生（父親が新聞社勤務）がくれる毎日ホールのチケットで文学座等の芝居を見るようになり、舞台の世界に強く惹かれていきました。高卒後の進路について「東京の大学に入って芝居がしたい」という彼の願いを母はあっさり聞き入れ、立教大学英米文学科に進み、劇研に入部しました。

大学卒業後、NHK俳優養成所を卒業、劇団30人会を結成。劇団文学座に入団、杉村春子

さんと出逢いました。後年この出逢いを「岸高6回還暦記念誌」で『…若い頃、杉村春子さんにイヤと云う程シゴかれたことが、私の大きな財産になっている。「二度と同じダメ出しを云わせるものか」と、これでもか、これでもかと自主トレに励んで練り上げて来たことが、自分で云うのもおかしいが、底力になってくれたと思う。杉村さんに逢えたから、今の私があるんじゃないか、今まで何度そう思ったことか。…』と回想しています。

初舞台の『友絵の鼓』で主役に抜擢され、その後舞台を中心に映画、テレビでも活躍。舞台では『華々しき一族』、『かもめ』、『華岡青洲の妻』、『女の一生』等々。映画では『金環食』、『皇帝のいない八月』、『日本のいちばん長い日』、『橋のない川』等々。テレビでは『新書太閤記』、『おしん』、『太平記』、『復活の時』等々。芸術祭優秀賞などを受賞しました。

1975年に「高橋悦史後援会岸高支部」が結成され、大阪公演時には恩師を筆頭に毎回30人～100人が駆けつけたとのこと。そしてマドカホール公演時の気持を彼はこう記しています。『華岡青洲の妻、この芝居で文学座初めての岸和田公演が1987年に実現したのだから、私は天にも昇る気持ちだった。…そして華岡青洲の役で岸和田の舞台が踏める。…』（同上記念誌）。

1994年膵臓癌に倒れ、闘病生活が始まります。入院先から点滴持参で『鬼平犯科帳』の撮影をやり遂げるなど一直線で誠実な人柄でした。病床で推敲した「生と死の隣り合わせに」（近代映画社）は、1996年4月発行、それを見届け1996年5月19日静かに人生という舞台を降りていきました。

【参考】「生と死の隣り合わせに」

俳優 高橋悦史著

「大女優・杉村春子との出逢い」

高橋悦史寄稿文（岸高6回還暦記念誌）

「高橋悦史君を悼む」 岸高6回

故 真砂真一（岸高同窓会報）

歩いて岸和田のよさを知る

# 岸和田慢歩

第15回

「土生滝停留所から意賀美神社までを歩く」



### ① 辻堂

土生滝町から阿間河滝町にいたる交差点(辻)に設けられたお堂。往古は道と道が交わる辻を、「魔」や「禍」が来る地点とも考えられ、神仏を祀ったお堂がよく建てられた。

### ② 道標地藏尊

辻堂のとなりに祀られた地藏尊。台石には「みづま」「かづらき」と刻まれている。

### ③ 旧有真香駐在所

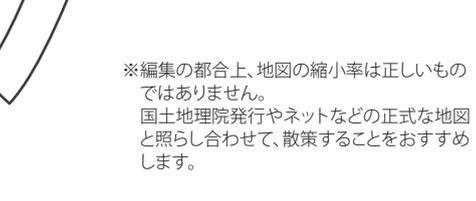
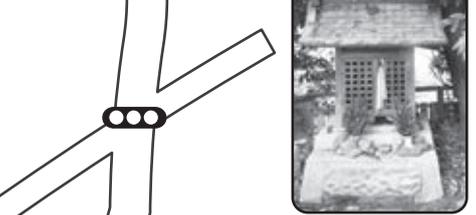
かつての駐在所跡で、現在は岸城塔原線沿いに移転。交番と違って警官が寝泊りする駐在所は有真香のほか、東葛城・山直上・内畑・大沢・尾生の5ヶ所が設置されている。

### ④ 阿間河滝町の家並み

急勾配の旧道に階段状の石垣が積み上げられた町並み。重厚な民家が整然と立ち並ぶ、ここでしか見られない家並みで、大阪まちなみ賞・奨励賞を受賞している。

### ⑤ 地藏尊

豪華な屋敷門の前に祭られた地藏尊。祠の前の水受けの裏には「天保六未二月吉日」とある。



※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。  
国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。



③ 旧有真香駐在所

④ 阿間河滝町の家並み

⑦ 阿弥陀寺

⑨ 奥家の棕

⑩ 中出地藏尊

⑫ 参道石碑

スタート

土生滝  
の又停  
有真香郵便局

② 道標地藏尊

① 辻堂

⑤ 地藏尊

⑥ 忠魂碑

⑧ 大樹と祠

⑪ 毘沙門天皇

意賀美神社

ゴール

国道170号線

高橋

土生滝停留所

神須屋町、八田町、真上町、土生滝町、阿間河滝町の一帯は、かつて有真香村と呼ばれ、郵便局や駐在所などに、今もその名を残しています。その名称は『日本書紀』に見られるほど古いもので、「阿幕(ありまく)」が「阿理莫」「阿間河(あまか)」と転じて、「有真香」になったともいわれています。今回はそんな有真香地区の中でも、土生滝町から阿間河滝町にかけての、小さな祠などが点在するルートを紹介します。

理事  
藤田保平・齒黒猛夫

#### ⑥ 忠魂碑

祠の横に建てられた石碑。裏には「明治四十二年九月(1909年)とあることから、日露戦争(1904~1905年)の戦没者を弔っているものと考えられる。

#### ⑦ 阿弥陀寺

正式名を「真龍山一心院阿弥陀寺」といい、開創は永禄3(1560)年。本尊は阿弥陀如来で両脇には観音菩薩と勢至菩薩が祀られている。この本尊は半跏像なのが特徴で、江戸時代中期の作とされている。

#### ⑧ 大樹と祠

檜の木と見られる大樹と、その下にある祠。

#### ⑨ 奥家の棕

樹齢は不明だが、高さ約5メートル、周囲約3メートルの堂々とした佇まいを見せる。昭和40年3月、市の天然記念物に指定。幹の空洞は70年以上前のものとされ、当時は子ども達のかくれんぼにも使われていたらしい。

#### ⑩ 中出地藏尊

急な坂を上った道の分岐に祭られた地藏尊。傍らにある道標には、「右水間寺・左葛木」とある。

#### ⑪ 毘沙門天皇

民家の前に祀られた祠。祠前の両脇にある燈籠に「毘沙門天皇」とある。

#### ⑫ 参道石碑

意賀美神社への方向を示した石碑。比較的新しいもので、最近設けられたものと見られる。

今回のスタートは南海バスの土生滝停留所から。山側に進んで郵便局の前を通り、左側に有真香農道が延びる交差点を右折します。道なりに進むと「辻堂」があり、少し離れた場所に道標の「地藏尊」が祀られ、道を隔てた高台に「旧有真香駐在所」の古びた建物があります。

三叉路を左に折れて急な坂道を下ると、土生滝町から阿間河滝町に向かう道沿いに、独特の家並みが続きます。しばらく歩くと右側に江戸時代に祀られた「地藏尊」の祠があります。

そのまま坂を下り、津田川にかかる高橋を渡ると、地藏尊が祀られた祠の側に「忠魂碑」が建っています。右に曲がって路地を進むと「阿弥陀寺」。寺の隣には立派なお堂があり、その前を通って一人一人通るのがやっとの路地を過ぎると、元の道に戻ります。

直進して道を横切れば、檜の木のような大樹と祠があり、元の道に戻って左折してすぐにそびえるのが、市の天然記念物でもある「奥家の棕」です。

棕の木の前を通って直進し、目の前の坂の上にあるのが「中出地藏尊」。坂を元の方向に戻り、左側に進むと「毘沙門天皇」を祀る祠があり、道なりに進んで「参道石碑」の指示に従って歩き、自動車整備工場の角を左折して国道170号線の下をくぐれば第12回の岸和田慢歩でも紹介した意賀美神社に到着です。

今回のコースは短い距離ですが、その中にポツンポツンと見るべきものが多いあり、それはまるで宝探しに似た感覚を覚えます。ただ、坂が多いコースなので、これからの季節は暑さ対策を十分に行ってください。

## 岸和田 あ・ら・か・る・と

本郷 元子

### しやなむし (サンキライ餅)



田植え休み(田植えを終えてのお休み)に広く作られる「しやなむし」。

その作り方や農家の暮らしのあれこれを、北阪町の谷 貞子さんにお伺いしました。昔、機械化されていない頃の農作業、分けても田植えは大変な重労働でしたよ。働き返して水を張った田の土は足をとるし、腰を屈めた姿勢で苗を植え続けるのですからね。「田植え休み」(田植えを終えて休める時)に、えん豆餡の餅をサンキライの葉に包んで蒸した「しやなむし」を作り、田植えでお世話になった方たちに配り、勿論家族でも団欒にいただきました。今はもう作る人もいなくなり、老人会で友人に話をしたところ、皆「懐かしいなあ」と声をあげていました。

若くてきれいなえん豆は全部出荷するので、餡にするえん豆は黄色くなり実も硬くなったものです。一晩水に浸したえん豆を煮て、日本手拭いを二つ折にして両端を縫って作った漉し袋に入れてぎゅうぎゅうと押し豆の皮と実を漉し分けます。好みの砂糖を加えて甘い餡にしてもよし、少しの塩を加えて塩餡にしてもおいしいですよ。

餅は同量の米粉と餅粉を捏ねて作ります。

手のひら大の餅に餡を包みサンキライの葉で挟み湯気の上がった蒸し釜に並べて蒸して出来上がりです。

昔懐かしい農家の暮らしや農作業のお話をたくさんお聞きし、ゆったりとひと時を過ごさせていただきました。

※サンキライ(山帰来) 学名サルトリイバラ、ユリ科のつる植物  
※老舗の和菓子店では、サンキライ餅として昔から作られている。

#### しやなむし(サンキライ餅) 12個分レシピ

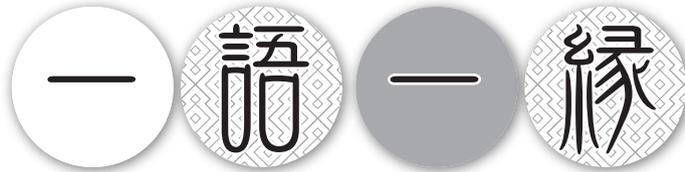
(レシピは料理研究家の高比良京子さんによる)

#### (材料)

餅	餅粉……………100g	
	米粉(上新粉) ……100g	
	熱湯……………200cc	
砂糖	…大匙2	片栗粉…大匙2
	水…大匙3	
餡	えん豆……………240g(若い青いえん豆を使用)	
	砂糖……………120g~200g	

#### (作り方) [餡]

- ① 湯気の立った蒸し器にえん豆を入れ、色よく蒸す。
- ② 蒸しあがったらフードカッターに入れ皮ごと砕く。
- ③ 鍋に移し砂糖を混ぜ火にかけて⑤~⑥分木べらで混ぜ餡を作る。
- ④ 餡を12個に分け丸める。
- ⑤ 餅粉と上新粉を混ぜ合わせたものに熱湯180ccほど入れ、湯の分量を加減しつつ耳たぶほどの軟らかさに練る。
- ⑥ ひと握りの俵型にとり、片手でグローブ型に握って、蒸し器に入れ15~20分蒸す。
- ⑦ 蒸しあがったらさっと水にとり、急いで温度を下げる。
- ⑧ すり鉢かボールに入れてよく捏ねる。
- ⑨ よく捏ねたら、水溶きした片栗粉を加えながら硬さを調節する。
- ⑩ これを12等分して餡を包み、サンキライの葉で包み8~10分ほど蒸す。



Ichigo-Ichien



丸・三角、  
形は全く違  
うけど、  
並べて通け  
ば  
友達みたい。  
藤田保子

(藤田氏直筆)

## 福娘さん

本郷 元子

「言霊」って、本当ですよ。

ご縁があって節分に、高見観音様にお手伝いに伺っています。

今年初めて柗のお守り売り場にすわりました。若いお嬢さん方と並んで5人程座ります。

玄関の外に挿しておき鬼さんの目を突き邪を払う、柗の小枝のついたお守りです。お参りを終えた善男善女の多くの人たちが求められます。それぞれ挿しておく所を考えて、あれこれ枝振りを見定めて買って行かれます。両手に5本ほど広げて持ち「枝の張ったのがよろしいか、それともしゅっと細いほうがよろしいか」などと会話を交したり、どんどん補充される柗を並べ直したり忙しさにつれて楽しさも増

し心弾んできます。

私の反対側の端から元気な声が響きました。「なあ僕の所で買うてよ」「折角やから福娘さんから買うわ」。その時一人だけ売り子に男性が混じっていたのです。思わずそちらに目を向けた私と声の主の目が合いました。

「おっと、“福ばあば”さんもいたんだ」と多分思われたでしょうね。でも何とも明るい率直な眼差しのとていい笑顔でしたので、私も飛び切りの笑顔を返したつもりです。

何でも“いいことは頂き”です。私も“福娘”。

この「言<sup>ことば</sup>壽ぎ」はとっても効き目がありましたよ。お蔭様で、私は目下絶好調です。

# Event Report

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。  
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

アンケートからの抜粋

## 蓄音機を使った昭和初期のレコードコンサート Vol.6

平成26年3月25日(火)  
午後1時30分～

昭和初期にアメリカで製作された蓄音機とSPレコードを使ったコンサートを自泉会館ホールで実施し、17人の入場者がありました。

### 〈皆さんの声〉

- ◆以前にも来させて頂きましたが、音響の良いホールですね。蓄音機の設定場所ですが、暖炉前よりピアノ前の方が、音が良いような気がします。
- ◆作曲家、演奏者、歌手等の説明をして頂きたいと思いました。年間2回は開催して下さい。
- ◆蓄音機を寄附してくれた方が亡くなられたそうですが、お元気でハンドルを回しておられた姿を想い出しました。お陰さまで、また懐かしい曲が聞けました。



## 第7回フレッシュプレミアムコンサート～未来へ ことから～

平成26年3月29日(土)  
午後5時～

平成25年4月～12月のフレッシュコンサートの出演者の中から推薦された9人の演奏者と、「自泉ジュニアコンサート」で最優秀賞及び優秀賞を受賞した3人によるコンサートをマドカホールで実施し、151人の入場者がありました。また、今回、初めて選出された最優秀者及び優秀者3名に対して賞状を授与しました。



### 〈皆さんの声〉

- ◆日頃クラシックに縁の無い人間ですが、若い人たちのひたむきな演奏が良かったです。特に、チェロは馴染みの薄い楽器ですが、心に響く音色で力強い演奏ぶりでした。
- ◆この演奏会を友人に教えてもらい初めて聴きに来たのですが、物凄くレベルが高く驚きました。素晴らしい催しだったと感じました。
- ◆演奏途中での咳ばらいや雑音を発する人たちに、本当にガッカリして残念です。マナーも大切だと思います。
- ◆ピアノ、ギター、チェロ、声楽と色々な演奏を聴かせて頂き、とても新鮮で心豊かなひとときを過ごせました。全ての演奏のレベルが高く、岸和田市の音楽レベルの高さをひしひしと感じ、素晴らしいと思いました。
- ◆岸和田は「だんじり」だけではないということを改めて感じました。文化不毛の泉州の挽回を期待します。
- ◆去年、今年と良かったので、来年も聴きにきます。

## 第39回自泉フレッシュコンサート ～春の風にさそわれて～

平成26年4月18日(金)  
午後6時30分～

ピアノとソプラノのコンサートを自泉会館ホールで実施し、36人の入場者がありました。



### 〈皆さんの声〉

- ◆ソプラノの歌は説明もあり、その世界に引き込まれました。表情や視線からも情景が浮かぶようで、素敵な歌声にうっとりしました。会館もとっても趣きがあり、素敵なコンサートでした。ピアノは、細かな速い動きなのに、とってもクリアな音でびっくりしました。
- ◆落ち着いた雰囲気の中で、とても素敵な音楽が聴けると思い楽しみにしておりました。期待通り、期待以上の音楽が聴けて感動致しました。また、是非来たいと思います。
- ◆素敵な会館に驚きました。有形文化財とかでコンサートにピッタリの響きを身近で聴かせて頂き贅沢な時間でした。中田さんのトークも歌も良かったです。的場はるかさんの力強さと流れるようなピアノ、この会館にピッタリでした。
- ◆演奏者と時間と空間を共有できるようなコンサートでとても良かったです。
- ◆思ったより本格的で驚きました。クラシックは分からないけど、説明があったので想像しながら聴けました。でも、もっと日本語が聴きたいと思いました。

## 第40回自泉フレッシュコンサート ～緑の風にさそわれて～

平成26年6月13日(金)  
午後6時30分～

ソプラノデュオとピアノによるコンサートを自泉会館ホールで実施し、26人の入場者がありました。

### 〈皆さんの声〉

- ◆素晴らしい演奏でした。ピアノは、今までに聴いたことがないぐらい上手で感動して泣けました。オペラは初めて見ました。あんなに美しい声が出るなんて驚きました。どうもありがとうございました。
- ◆ステージが近くて、表情も見えて良かったです。
- ◆二重唱は聴き応えがあって良かった。
- ◆初めての生オペラに感動。ピアノも感動。
- ◆すごく迫力があって、凄かったです。



## タンゴアンサンブル「アストロリコ」 タンゴ・ライブ in 自泉

平成26年7月4日(金)  
午後7時～

### 〈皆さんの声〉

- ◆良い雰囲気の中で本格的なタンゴ演奏が聴けて、とても幸せです。それもリーズナブルな入場料で・・・。
- ◆本格的なタンゴを初めて生で聴きました！見ました！素晴らしいです！明るい曲、情熱的な曲、「恋人よ」のアレンジもタンゴ調で聴けるなんて良かったです。
- ◆タンゴのメロディと自泉会館の雰囲気がマッチして大変良かったです。
- ◆日本を代表するバンドネオン奏者の演奏を、岸和田のコンサートで聴くことができて感動しました。
- ◆外国の色々な果物を味わっているようにした。味わいの違う曲の色々が聴けて楽しいコンサートでした。
- ◆演奏が素敵なのは勿論でしたが、曲毎に終わったときの演奏者の方々の笑顔や目配りも素敵でした。
- ◆「生」の音楽は「いい」と実感しました。

日本を代表するバンドネオンの名演奏家門奈紀生氏を中心に編成された「アストロリコ」によるアルゼンチン・タンゴのコンサートを自泉会館ホールで実施し、98人の入場者がありました。

# 岸和田文化事業協会の事業 Information

## 第1回 自泉Re.フレッシュコンサート

演奏活動をしばらく休止していた方、他のお仕事をしながら音楽を学んでこられた方、また子育ても終わり再度音楽の勉強を始めた方々によるコンサート

日 時:平成26年8月2日(土)午後6時半開演  
 会 場:岸和田市立自泉会館ホール  
 入場料:会員前売1,000円(当日200円増)  
 一般前売1,200円(当日200円増)  
 出演者:尾道 幸司(バリトン) 中村 聖美(ソプラノ)  
 西川 寛子(ソプラノ) 堀内恵利子(ソプラノ)  
 村瀬 昌恵(ピアノ)

## ピアノデュオの軌跡 木村貴子&関口康祐10年のあしあと

木村貴子と関口康祐のお二人によるピアノ連弾コンサート。  
 「音楽は明るく楽しく!!」をモットーに! 巧みな技術と話術をお楽しみください。

日 時:平成26年9月6日(土)午後4時開演  
 会 場:岸和田市立自泉会館ホール  
 入場料:会員前売1,500円(当日500円増)  
 一般前売2,000円(当日500円増)  
 出演者:木村 貴子・関口 康祐

## 第42回 自泉フレッシュコンサート ～秋に思いをはせて～

音楽を学び、プロフェッショナルとして歩み始めた新人演奏家によるコンサート

日 時:平成26年10月5日(日)午後2時開演  
 会 場:岸和田市立自泉会館ホール  
 入場料:会員前売1,000円(当日200円増)  
 一般前売1,200円(当日200円増)  
 出演者:未定

## 陶芸教室 自分好みのオリジナルタンブラーをつくりませんか?

日 時:平成26年8月5日(火)午後1時～(作成から素焼きまで)  
 平成26年8月26日(火)午後1時～(絵付け)  
 会 場:西念陶器研究所 参加費:2,000円  
 定 員:20名(先着順) 持ち物:エプロン・タオル  
 ※汚れても良い服装でご参加ください。

■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで  
 TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

## 「ただいま。カーネーションと現代美術。」展

岸和田出身者や、泉州にゆかりのある、国内外でも活躍するアーティストたちによる美術展

日 時:平成26年9月3日(水)～10日(水)  
 午後12時～午後7時(月曜日は休館)  
 会 場:岸和田市立自泉会館 展示室  
 入場料:無 料  
 出展者:稲垣 智子、大崎のぶゆき、永井 英男、  
 西武アキラ、吉村 萬壱、wah document

## 「ただいま。カーネーションと現代美術。」展 関連ライブイベント「Yugiによるクリスタルボウルライブ」

岸和田市内にある高野山真言宗崇徳院の僧侶でもあるYugiによるクリスタルボウル演奏会。  
 ・日 時:平成26年9月5日(金) ・会 場:岸和田市立自泉会館 ホール  
 午後7時開演 ・入場料:無料(予約不要)

## 「ただいま。カーネーションと現代美術。」展 関連トークイベント「吉村萬壱氏の芸術のはなし+参加アーティストトーク」

第192回芥川賞受賞作家吉村萬壱氏が芸術についてお話しします。  
 ・日 時:平成26年9月7日(日) ・会 場:岸和田市立自泉会館 展示室  
 午後4時半開演 ・入場料:無料(予約不要)

## 岸和田能 秋の名曲を観る会 能「 」とお話

日 時:平成26年10月24日(金)午後7時開演  
 会 場:杉江能楽堂  
 入場料:前売3,000円(当日500円増)  
 チケット発売日:会員 9月5日(金)・一般 9月17日(水)  
 出演者:能楽協会大阪支部会員

## 文化 情報

## 2014子ども演劇祭inきしわだ

日 時:平成26年8月6日(水)～10日(日)  
 会 場:岸和田市立浪切ホール各会場  
 入場料:プロ作品 前売1,500円(当日500円増)  
 アマチュア作品 無料  
 主 催:子ども演劇祭in岸和田実行委員会  
 問 合:072-437-3456

※詳しくは、チラシまたはホームページをご覧ください。  
<http://www.sozosha-net.jp/kishiwada-fes/>



## nouvelle Fontaine vol.44

発行:岸和田文化事業協会  
 発行日:2014年7月25日

◆事務局  
 〒596-0073  
 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内  
 TEL/FAX 072-437-3801  
 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 小島栄子・歯黒猛夫  
 藤田保平・本郷元子

## 編集後記...

「岸和田慢歩」も今号で15回を迎えました。コレはいい機会!と、市の白地図に今まで訪ねたところをマークしてみました。思ったよりも少なくビックリしました。そして、訪ねるたびに驚きの発見があり、それぞれ「宝探し」の気分で取材を続けています。同じような企画を新聞やミニコミ誌、ホームページなどで、見かけることがあります。とはいえ、故郷を知る上で、情報が多すぎるということはないのでは?とも考えます。住んでいる町のすぐ側にある「宝物」。発見したときの喜びを、紙面から感じ取っていただければ幸いです。(歯黒猛夫)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/> 岸和田文化事業協会

検索